

---

# 秘密の屋敷

ゲーフィ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

秘密の屋敷

### 【Nコード】

N5153A

### 【作者名】

グーフィ

### 【あらすじ】

少年があくしつないやがらせにあってしまふ。

(前書き)

七作品目です！！！！！！！

暇でしたら、よんでももらえると嬉しいですよ。

どうしよう・・・どうしたらここから出ることができんだ？  
こんな事になるくらいなら、あんなことしなきゃよかった。

とりあえず、ここから出る道を探そう

僕は歩き出した。・・・周りは、樽や壺などが、ほこりまみれの状態でおかれている。このことからすると、ここは物置きだろう。

奥の方に古びたドアがある。あそこから出よう。

僕がドアに近づいて、ドアノブに手をかけようとした。でも、それよりも先にドアの反対側から何者かに、ドアを開けられた。

僕の目の前に、体格のいい男が現れた。

「お前だれだ？・・・なんでこんなところにいるんだ？・・・  
・・・どうやってここに入ったきたんだ？」

「・・・」

僕は恐怖でなにも答えることができなかった。

「まあいい。とりあえず、お前をボスのところにつれていく。」

僕は男に連れられて、「ボス」という人に会いにいった。

体格のいい男は、一つのドアの前に行くと、そのドアをロックし、ぼくを連れて中にはいった。

「ボス、怪しい奴が、この屋敷にいました。こいつどうしましょう？」

と、体格のいい男が言った。

「お前はどうかやってここにきたんだ？」

ボスはぼくにそう言った。

僕は恐怖に声を震わせながら、ここに来るまでの一部始終をはなした。

僕はこここの町に引っ越してきたばかりだったので、町を探検しているうちに、数人の少年達に、嫌がらせで、ここに閉じ込められてし

まったのだ。

話終わると、ボスと名乗る男は言った。

「この事はなにも知らないのか？」

僕は答えた。

「なにも知りません。」

すると男は、安心してこう言った。

「ならばいい。ここからだしてやろう。」

やった。やっとここから出られる。でも、そのとき、一人の女が入ってきた。その手には、白い粉末の入った袋を持っていた。

これは、もしかして、覚せい剤か？

そして、ぼくを見ていたボスは、僕の様子を見て、声を張り上げた。

「もう、生かしちゃおけねーなあ。そいつを殺せ！！！！」

「うわーーーーーーー」

僕は叫びながら全力で走った。そのあとを男が追いかけてくる。しかし、男は足が遅く、僕と男の差はどんどんひらいた。

僕は廊下を走りぬけて大広間にでた。辺りを見回すとドアがたくさんあった。

僕はその中の一つに入った。ここは、ベッドルームのようだ。ベッドとクローゼットがある。

僕はとつさにクローゼットの中に隠れた。しばらくすると、足音が聞こえてきた。そして、この部屋に入ってきた。

僕は息をひそめえた。男は辺りを見回している。

「ここじゃあないか……」

男は、むきを変えて、部屋からではじめた。

よかった、助かった。僕はほっとして、体の力を抜いた。そのとき、僕はバランスをくずし、前のめりにたおれて、クローゼットから出てしまった。

それに男は気付き、またしても僕に襲い掛かってきた。僕は必死で起き上がって、逃げようとした。

でも、あと少しで逃げ切れるというところで、男がヘッドスライデ

イングをしてきて、足を捕まれてしまった。

僕は、男の顔を足で蹴り付けた。

「うぎゃー……いて……」

男は僕の足をはなした。そして、僕はパニックになりながらまた走り出した。

何も考えずに、ただひたすらに走り回った。ドアを開けまた次のどあへ……

六個目のドアをあけるとそとにできることができた。

僕はだんだん落ちて着いてきた。これで、僕は助かったんだ。

「やったー……」

僕は叫んだ。その瞬間、屋敷から車が出てきた。

そして、こっちに向かって走って来た。僕はなんとか横っ飛びで回避した。

それでも、車は、またこっちに走って来た。

僕は必死で走って近くの家に逃げ込んだ。そこで、助けを求めて警察をよんでもらった。

こうして、僕は逃げ延びることができたのだ。

のちに、ぼくの証言によって、男達を捕まえることができたのである。

(後書き)

どうでしたか・・・  
感想をかいてもらえると  
うれしいです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5153a/>

---

秘密の屋敷

2011年1月28日14時58分発行